

上北地区統合校開設準備委員会（第3回）概要

日時：令和元年9月12日（木）

10:00～11:30

場所：サン・ロイヤルとわだ 2階 孔雀の間

<出席者>

○委員

齊藤 聖一 委員、水尻 和幸 委員、吉田 繁徳 委員、遠藤 剛 委員、沼山 喜久男 委員、丸井 英子 委員、長谷川 光治 委員

○オブザーバー

県立十和田西高等学校

田中 正也 教頭、福島 智 教務主任

県立六戸高等学校

奈良岡 隆樹 教頭、種市 誠 教務主任

県立三本木農業高等学校

円子 昭浩 教頭、太田 良孝 教頭、柴田 富由紀 事務長、佐々木 伸介 教務主任、佐々木 篤 農場長

1 開会

2 事務局説明

(1) 第2回上北地区統合校開設準備委員会における主な意見

■ 事務局から資料1により第2回上北地区統合校開設準備委員会における主な意見について説明した。

■ 委員から次のような意見があった。

○ 上北地区統合校の特色ある教育活動の引継ぎに関連して発言したい。これまでの開設準備委員会で観光科の設置を要望したところだが、第1期実施計画において、上北地区統合校の学科構成は普通科と農業科とすることで決定しているという話を既に聞いたところである。

ただ、「十和田西高校の観光科の学びについて、単に観光ガイドをするための学びではなく、観光経済、経営等を幅広く学ぶ場として引き継ぎ、生徒募集の際には、それが見える形で示してほしい。」という十和田市長の言葉を預かったので、お伝えしたい。

市長の発言の意図については、十和田西高校から生徒の活動や成果について説明いただければ委員の方々にも理解してもらえるのではないかと考えているので、付け加えて説明いただきたい。

→（事務局）只今、発言があったとおり、第1期実施計画において、上北地区統

合校に設置する学科については、普通科と農業科とすることで既に決定しているところである。

学科構成については、中学生の進路選択に支障が生じないように、第1期実施計画を前提に統合の準備を進めていく必要があること、また、新たな学科の設置についても、中学生のニーズ等を踏まえ慎重に対応する必要があることについて、これまでも説明してきたところである。

十和田西高校の観光科における特色ある教育活動については、統合校に引き継ぐこととしているが、第2回開設準備委員会で十和田西高校から提案があったとおり、普通科の中に観光コースを設置し、2学年から選択するという方向も考えられる。

学校案内の作成や体験入学での説明の際には、学科やコースについても触れることが想定されるため、只今の意見を踏まえ、来年度開設準備室で検討の上、観光の学びについて示したい。

○十和田西高校（齊藤委員）

観光の学びについては、今、事務局からも説明があったとおり、中学生に体験入学等ではっきり説明すべきと考える。

本校の観光科では、1年生の時に十和田市や奥入瀬の地理や歴史などを1年掛けて勉強し、学習したことを活用して2年生でボランティアガイドを担っている。この中で、年齢の異なる人たちに対して、自分たちの言葉で学んだことを説明しているのが、非常に生徒たちの力になっている。

実際2年生がボランティアガイドを経験した後は、一回り違う成長が見られる。これは学習指導要領の改訂等の動きに非常に合っているのではないかとと思われる。

観光科だからといって、旅行業関連産業に勤めるのではなく、観光を題材にして、人間的な成長を図るということが大きな目的であるので、是非、統合校になってからでも、2年生以降に正課の授業に取り入れるなどして、このような学びを進めれば非常に良いのではないかと考えている。

- 1頁の「②新たな特色ある教育活動」に、青森県営農大学校との連携について記載されているが、青森県営農大学校には、三本木農業高校の4年生、5年生といった位置付けになるように、教育のレベルを上げていただきたいことを一つ要望しておきたい。

また、現在の三本木農業高校においても、子どもたちや先生方が頑張っているが、統合校は農業の先端に行くようなモデル校を目指せば良いのではないかと。

3 意見交換

(1) 校名案の方向性について

- 委員長から事務局に対し、校名案の方向性に係る意見交換の進め方等について説明を求め、事務局から資料2により説明した。

- 委員長から、各委員から提案のあった校名案候補4件について意見照会を行うこととし、その方法については事務局案のとおり進め、詳細については委員長に一任する旨確認し、委員から了解された。

(2) 校訓・校章・校歌・制服の方向性について

- 委員長から事務局に対し、校訓・校章・校歌・制服の方向性に係る意見交換の進め方等について説明を求め、事務局から資料3及び資料4により説明した。それぞれの方向性については、校名案が「三本木農業高校となった場合」と「三本木農業高校以外となった場合」に場合分けした上で検討することとした。

①校訓の方向性について

- 委員から次のような意見があった。
- 校訓は新たに制定した方が良い。各校の校訓を読み比べた中でも、例えば自律や自主など重複しているものもあるし、四字熟語で表している校訓も意味が似ているものもある。校名を引き継ぐ引き継がないに関わらず、校訓を検討していく必要がある。

今の段階では新しい学校にふさわしい校訓は思い付かないので、とりあえず校訓を制定するという方向とすべきだと思っている。
- 私は学校名と校訓等を一緒に考えなくても良いのではないかと考える。学校名に関係なく、これまでの校訓にとらわれずに考えれば良いと考える。

そこで、校名案の候補を見ると、三本木農業高校はそのまま残っているほか、新しい校名案候補として「拓生」や「恵拓」などの文言がある。この「拓」を何らかの形で、「協同」と「拓」を組み合わせたような校訓ができないかと思う。また、親子兄弟といった人間関係が希薄化している社会の現状を考えたときに、校訓に絆や親子愛をもう少し取り入れてはどうかとを感じる。
- 私も校名に関わらず、校訓については新しくした方が良いのではないかと考える。上北地区統合校は学科が2つになるので教育内容が若干変わることとなる。また、これから求められる人財というのも、当然時代とともに変わってくるので、私は新しい校訓を制定した方が良いのではないかと考えている。
- 校名が変わっても変わらなくても、校訓は新しくした方が良い。私の出身高校の十和田西高校は「自律・進取・敬愛」と2文字で、とても言いやすく覚えやすい。私も高校時代からよく覚えている。このように覚えやすく、分かりやすい校訓であれば良い。自分の高校の校訓を一生思って生きていくことができるような分かりやすい校訓が良いのではないかとと思う。

- 委員長から、校訓は新しい学校の教育目標に沿ったものを新たに検討していくという方向性にする旨確認し、委員から了解された。

②校章の方向性について

- 委員から次のような意見があった。
 - 学校名に関係なく、現在の三本木農業高校の校章に、十和田西高校及び六戸高校の校章にもある「高」を置いたら3校に共通した校章になるのではないかと。三本木農業高校の校章というのは、同窓会各支部において、同窓会誌など様々な場面で用いている。高の漢字が入る程度であれば、今あるものを活用できるのではないかと。全く私の都合で言ったが、そういう部分でこのマークは残し、これに2校の共通したものを入れることで、何とか理解してもらえないかという思いである。
 - 私は同窓会の視点ではなく、三本木農業高校の校章であるクローバーが3枚並ぶ形が3校の統合に合うと思ったので、従来の校章に対する解釈に付け加え、十和田西高校と六戸高校の特色を加えることにはなるのではないかと。
 - 三本木農業高校の校章のままでも特段問題は生じないと思うが、ただ統合校になるので、対外的なことも含めれば、この校章に変化を求めることも必要ではないかと思う。
 - 三本木農業高校の校章に新たな解釈を付け加えるという考えはすごく素晴らしいと思う。時間があるので、じっくり検討すれば良いのではないかと。
- 委員長から、校章は三本木農業高校の校章をベースに手を加えていくという方向性にする旨確認し、委員から了解された。

③校歌の方向性について

- 委員から次のような意見があった。
 - 先ほど3校の校歌をそれぞれ聴いたが、いずれも良い校歌なのでこの3つのうちからどれかを残せば良い。ただ、三本木農業高校の校歌が変われば、行事で校歌を斉唱する際、異なる校歌を2回歌うのか、それとも1年生だけが新しい校歌を歌って、2、3年生が古い校歌を歌うのか。いずれの場合も混乱が生じるのではないかと。したがって、統合後、現在の三本木農業高校の生徒が在籍する2年間だけ三本木農業高校の校歌を歌い、その間に検討を重ね、2年後に決定しても良いのではないかと。
 - 統合校は新しくスタートするという前提であれば、校章、校歌、制服はやは

り変わっていくべきではないか。1年生と2、3年生が混在している統合校開校からの2年間に関しては、私が前任校に勤務していた時、OBの方々がいらっしやる機会には校歌を2つ歌ったという事例もあったので、2つ歌っても特に混乱しないのではないかな。

どの校歌も皆素晴らしかった。したがって、どれを捨てるということではないが、この際校歌は新しいものにした方が良いような気がする。

三本木農業高校の農業を学んでいる生徒にとっては、多分この校歌で十分良いと思うが、普通科の生徒への配慮もあっても良いではないか。校歌はこの際新しくして、最初の2年間は例えば2つ歌うとかすればどうか。

- 私も3校の校歌を聴いて、いずれかを選ぶのであれば本当にもったいないと思ったが、3校の歌詞を見た時に、どのような学校にも合うと思ったのは、実は六戸高校だった。どのような学科構成であっても六戸高校の歌詞が合う。また、校歌の雰囲気についても、今の子たちに馴染むのは、六戸高校の校歌ではないかと思った上、上手に男性と女性のコーラスになっており、音楽的にも良い感じであった。

まずは新しい校歌を作って、力強い三本木農業高校の校歌をどのような場で歌うのか新たに検討すれば良いのではないかな。

- 捨てがたい3つの校歌なので、これを存続させながら、今の生徒の音楽や言葉のセンスに合った新しい校歌を制定した方が良いのではないかな。私は三本木高校に長く勤務していたが、同窓会の会合では、かつての女学校の校歌を歌っており、3校の校歌について場面によって取扱いを決めていけば良い。新しい校歌を作る場合の制定方法は開設準備室で検討すれば良い。

- 新しい高校が今生まれることについては理解するが、他地域の統合と今回の3校の統合は中身が違うと思う。青森県を代表する三本木農業高校を動かすわけにはいかないという思いが強い。そういうことから言えば、必ずしも新しい学校だから校歌を変えることには同調できないので、一言申し上げておきたい。

- 委員長から、校歌は3校の校歌を残し斉唱する場面を検討しつつ、新たな校歌を制定する方向で検討していくという方向性にする事、一方で三本木農業高校の校歌から変更しないしてほしいという意見があることを確認し、委員から了解された。

④制服の方向性について

- 委員から次のような意見があった。

- 私は十和田西高校の出身だが、ブレザーにネクタイの姿で、当時は斬新な制服だった。私は本当にこの制服を気に入っていて、この高校に入学しようと思

った動機でもあった。これから観光、農業に特化していくということで、ネクタイを締めていると観光客等へも案内しやすく、学生服よりは少しは格好が良いと思う。三本木高校も三本木農業高校も大体似たような制服なので、特色を出すという点では、多少デザインが変わっても、十和田西高校のブレザー、ネクタイのスタイルが良いのではないかと思う。

- 私は個人的にはあまりネクタイにはこだわらないタイプでもあるので、本当に高校生がネクタイをするのが良いかどうか分からない。

最近の三本木農業高校生は昔の三本木農業高校生に比べると、本当に紳士になってきて、我々先輩から見れば、昔の三本木農業高校の腕白さが薄れてきたという話をしている。

これからも地域を守るとなれば、必ずしもネクタイを締めなくても良いのではないかという気がする。ネクタイにはあまりこだわらない方が良いのではないかと思うが、制服を新しくするか否かについては、こだわるつもりはない。

- 制服は制定すべきである。男子の制服は全国的にもブレザーか学生服であり、この場でどちらが良いかは判断できないので、開設準備室で検討すれば良いと思う。女子については、新たなデザインで進めていけば良いと思う。本校の場合、女子の夏服は普段用と儀式用しかないが、津軽地方の高校では男女とも夏服の他に盛夏服がある。また、ベストを着ると暑いという声もあれば、盛夏服をポロシャツ風にした制服にすると就職や進学のための面接では私服で来ないようと言われたなど、それぞれ課題がある。

また、3校の制服は制定当時の生地がそのまま使われているが、現在の夏服は、微妙にメッシュになって風通しが良いもの、汗染みが出ないもの等、生地の素材が変わっているほか、デザインも変わってきているので、これらのことを踏まえ、現在の女子生徒にふさわしいような制服にしていくと良い。

- 男子の制服については、ブレザーと学生服のどちらが良いか、私も分からないが、女子の制服について、女子生徒は何々高校の制服がかわいいのでその高校へ進学したいということも結構ある。新設校であり今までとは教育内容が変わることを示す意味でも、また、生地の効用の面からも考える必要がある。例えば女子生徒から「どのような制服が良いか」といったアンケートを取り、それを踏まえデザイナーなりに頼んで作っていただければどうか。

ただし、高校入試の合格発表前から制服を注文する生徒もいることから、制服については早く決めないと、取扱店の対応が合わなくなると思うので、ある程度早く決めた上で、良い時期に準備を進めていただきたい。

- 男子の制服については、三本木農業高校は他国からも交流で来るなど高校間の国際交流が進んでいるし、統合校においても世界各地に出るという機会が多くなると思われる。そういうことを考えると、国際的な視点からの活動を考え

れば、ブレザー、ネクタイの方が良いのではないか。

- 委員長から、男子の制服はブレザー、学生服のどちらにするかを含め検討していく、女子の制服は既存の制服から素材を含めて大幅にデザインを変える方向で検討していく旨確認し、委員から了解された。

(3) 統合対象校の記念物品の展示について

- 委員から次のような意見があった。

○ 今後農業科に普通科が加わるため、現在、校舎も改修していく方向で県教育委員会が動いているところである。

現在のままでは展示スペースはないが、校舎の改修等により生徒の玄関ロビーや渡り廊下などにスペースが確保できれば、3校の記念物品を校舎内に展示するのが良いと思っている。

また、現在三本木農業高校では、100周年記念会館に歴史的記念物の展示室を設けているが、そこは三本木農業高校の物品だけで一杯であり、できればこの記念物品も他校のものと併せて校舎内に置きたいと考えている。

付け加えて、各学校の校旗、校章、校訓が書いてある額等については展示するが、学校の卒業アルバムや生徒会誌等については図書室を利用するなど、記念物品一覧の中である程度整理しながら、1ヶ所に限らずに保存すれば良いのではないかと考えている。

- 委員長から、開設準備委員会からの意見を踏まえ、展示内容等について開設準備室において精査しながら検討を進めていく旨確認し、委員から了解された。

(4) 統合対象校の事務の引継ぎについて

- 委員長から事務局に対し、統合対象校の事務の引継ぎ方針について説明を求め、事務局から資料6により説明した。

- 委員から次のような意見があった。

○ 事務の引継ぎはともかく、私は現在同窓会長の立場であるが、令和5年度の閉校後は、現在の同窓会は解散になるのか。県教育委員会は後援会や同窓会の位置づけについてどういう考え方なのか、あるいは全く考えていないのか、何らかの希望的な意見等があるのかどうか、そこを先に伺いたい。

→ (事務局) それぞれの団体には、学校の教育活動には協力いただいているところであるが、任意団体のことなので、県教育委員会としては、こういう方向にしてほしいという方針を示せる立場にないと思っている。

○ 例があれば示してほしい。

→（事務局）例えば中南地区は黒石高校と黒石商業高校が募集停止となり、新黒石高校が開校する形になっているが、黒石高校、黒石商業高校の各任意団体がそれぞれ各自で方針を検討しているところである。

- 統合後、新しい学校の同窓会と今の同窓会の事務を統合校が行うことに対し、県教育委員会は統合校に任せることになるのか不明である。

また、今回の統合というのは、確かに3校が一緒になり新しい学校を作ることではあるが、三本木農業高校の立場からいけば、同窓生同士で、三本木農業高校は県下でも3番目に古い学校であることが話題となるなど、そのような伝統が思いの中に強く残っている。統合校が新設され、その前の120年余りの三本木農業高校の同窓会の形をどういう形でどこまで引き継ぐべきかについて、県教育委員会は関係ないから、自由にさせるといふわけにはいかないと思う。

青森県やこの地域を三本木農業高校の卒業生たちが支えて今日がある状態の中で、学校が変わったからといって先輩たちはどうでも良いという形は好ましくない。仮に学校の名前は変わったとしても、120年余りの伝統は新しい学校に引き継ぐこととし、場合によっては六戸高校、十和田西高校の同窓会も一緒になる形は作れないかという思いがあって質問したところである。

- 任意団体である同窓会やPTAには、各学校が大変お世話になっているところである。それは、生徒のために力を貸そうということで、同窓生の方々が金銭的、物質的、精神的な面で学校に協力していただいている状況である。

それのできる財産は、学校のものではなく任意団体のものである。それを学校の生徒が使って、自分の力を伸ばしていこうということになる。そういうシステムだと考えている。

したがって、新しい学校になっても、そこにいる生徒を皆で援助してやろうという観点で、現在の3校の任意団体関係者がそれぞれ財産をどうするか検討することになるが、そのことについて私たちは言えない。

- 同窓会等の活動というのは、もちろん生徒の環境を整えることであるが、同窓会の活動を重要視している理由は、たとえ役場に入ろうが、農協に入ろうが、東京のどこかの会社にいようが、学校の先輩として後輩を育てるとともに、卒業生と生徒との絆を大事にする必要があるためである。したがって、同窓会の活動は、お金の問題ではないと私は思っている。

三本木農業高校の同窓会に限らず、県下全高校の同窓会の人たちの活動には社会教育活動という名目もあると思うので、行政もある程度目を向ける必要があると思う。統合をきっかけとして、同窓会の大事さや位置づけをきちんと示すべきであり、関係ないことだからということでは情けないと感じる。

- 学校も県教育委員会も、各校における教育活動を続ける上で、同窓会や後援会の活動が重要であることを認識していると思うが、ただその方向性に関して

は、任意団体ということなので、方向性を示すのは難しいということである。新しい学校をより良い学校にするため、後援会やP T A役員の方々に対し、今後も色々な御尽力をお願いすることになると思うが、学校の中の大きな問題なので、今後とも議論が交わされると思う。

- 事務引継ぎに関しては、1年早く進んでいる中南地区統合校の例やこれまでも進めてきた統合の流れを踏まえ、同じ形で進めて良いと思っている。

具体的には、証明書の発行等は新しい統合校が引き継ぐという形で良いと思っている。また、教育実習については現在でも毎年10人前後の教育実習生を受け入れている。例えば大阪府出身や沖縄県出身の北里大学学生も受け入れるなど、本校の卒業生にこだわらず受けている状態なので、今後とも継続したい。

一方、先ほど記念物品の展示について述べたが、校舎の改修がきちんと進まない、資料室一つすらない状態である。例えば生徒の生徒指導要録については保存年限が決まっているので、耐火金庫を新たに設けて、新たに部屋を作るなど、事務の部分と教育の部分の両方をきちんとカバーするような、学校施設の整備をしていかなければ、様々な問題が起こってくると思われる。

したがって、校舎の大規模改修に合わせ、そのようなスペースの確保についても要望したい。

→ (事務局) 今回の要望について担当課である学校施設課に報告しておきたい。

- 委員長から、統合対象校や統合校、県教育委員会において十分情報を共有しながら、事務の引継ぎを進めていく旨確認し、委員から了解された。

4 閉会